

材料の力学 1 Step2,3 第 11 回演習問題 (2018/7/10 実施)

[1] 図 1 に示すように右端が壁に固定された長さ $2L$ のはりに分布荷重 p が作用している. このとき以下の問いに答えよ. ただし, はりの曲げ剛性は EI とする.

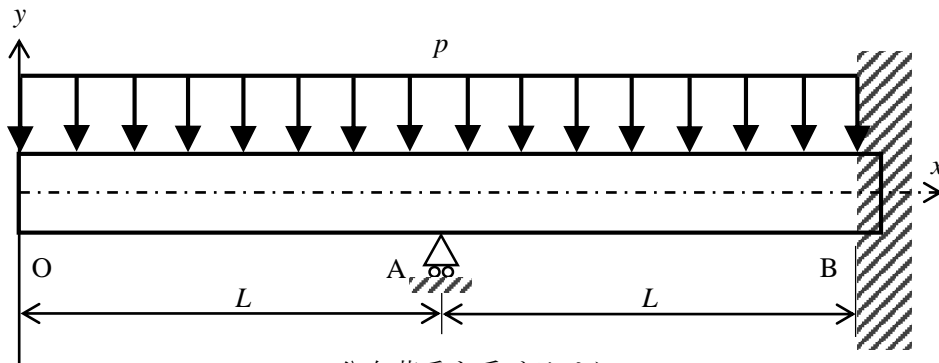


Fig. 1 分布荷重を受けるはり

- (1) はり全体の FBD を描き, 曲げモーメント $M(x)$ を特異関数表示せよ. ただし, A 点の支点反力は R_A とする.
- (2) A 点の支点からの反力 R_A , B 点の壁からの反力 R_B と反モーメント M_B を求めよ.
- (3) はりのたわみ角 $v'(x)$, たわみ $v(x)$ を表す式を求めよ.
- (4) O 点に生じるたわみ v_0 を求めよ.

[1]

(1) はり全体の FBD を描き，曲げモーメント $M(x)$ を特異関数表示せよ．ただし，A 点の支点反力は R_A とする．

点 B での反力 R_B ，反モーメント M_B をおくと，はり全体の FBD は以下ようになる．

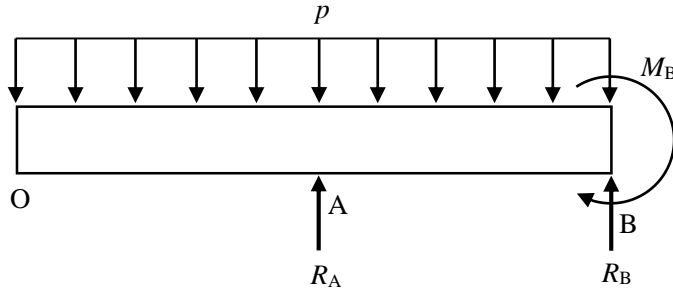


Fig.1.1 はり全体のFBD.

$M(x)$ を特異関数表示すると，

$$M(x) = \frac{p}{2} \langle x \rangle^2 - R_A \langle x - L \rangle^1 \quad (1.1)$$

(2) A 点の支点からの反力 R_A ，B 点の壁からの反力 R_B と反モーメント M_B を求めよ．

図1.1より，力のつり合いから，

$$R_A + R_B - 2pL = 0 \quad (1.2)$$

点Bまわりのモーメントのつり合いより，

$$-2pL^2 + R_A L + M_B = 0 \quad (1.3)$$

また，はりとたわみの関係式から，式(1.1)より，

$$\begin{aligned} -EIv'' &= M(x) \\ &= \frac{p}{2} \langle x \rangle^2 - R_A \langle x - L \rangle^1 \end{aligned} \quad (1.4)$$

次に C_1 ， C_2 を積分定数として，式(1.6)の両辺を2回積分する．

$$-EIv' = \frac{p}{6} \langle x \rangle^3 - \frac{1}{2} R_A \langle x - L \rangle^2 + C_1 \quad (1.5)$$

$$-EIv = \frac{p}{24} \langle x \rangle^4 - \frac{1}{6} R_A \langle x - L \rangle^3 + C_1 x + C_2 \quad (1.6)$$

よって、はりのたわみ v の x 方向変化を $v(x)$ とおき、境界条件について考える。

点Aでは単純支持なので、

$$v(L) = 0 \quad (1.7)$$

点Bでは固定端なので、

$$\begin{aligned} v(2L) &= 0 \\ v'(2L) &= 0 \end{aligned} \quad (1.8)$$

式(1.8)を式(1.5)に代入して、

$$\begin{aligned} 0 &= \frac{4}{3} pL^3 - \frac{1}{2} R_A L^2 + C_1 \\ \therefore C_1 &= -\frac{4}{3} pL^3 + \frac{1}{2} R_A L^2 \end{aligned} \quad (1.9)$$

式(1.9)から、式(1.7), (1.8)を式(1.6)に代入して、

$$\begin{aligned} 0 &= \frac{p}{24} L^4 + \left(-\frac{4}{3} pL^3 + \frac{1}{2} R_A L^2\right)L + C_2 \\ 0 &= \frac{2}{3} pL^4 - \frac{1}{6} R_A L^3 + \left(-\frac{8}{3} pL^3 + R_A L^2\right)L + C_2 \\ \therefore R_A &= \frac{17}{8} pL \end{aligned} \quad (1.10)$$

$$C_2 = \frac{11}{48} pL^4 \quad (1.11)$$

式(1.10)を式(1.2), (1.3)に代入して、

$$R_B = -\frac{1}{8} pL \quad (1.11.)$$

$$M_B = -\frac{1}{8} pL^2 \quad (1.13)$$

以上まとめて、

$$(R_A, R_B, M_B) = \left(\frac{17}{8} pL, -\frac{1}{8} pL, -\frac{1}{8} pL^2\right) \quad (1.14)$$

と求められる。

(3) はりのたわみ角 $v'(x)$, たわみ $v(x)$ を表す式を求めよ.

式(1.9), (1.10)より,

$$C_1 = -\frac{13}{48} pL^3 \quad (1.13)$$

よって, 式(1.5), (1.6)に式(1.10), (1.11), (1.13)を代入して,

$$v'(x) = -\frac{1}{EI} \left(\frac{p}{6} \langle x \rangle^3 - \frac{17}{16} pL \langle x-L \rangle^2 - \frac{13}{48} pL^3 \right) \quad (1.14)$$

$$v(x) = -\frac{1}{EI} \left(\frac{p}{24} \langle x \rangle^4 - \frac{17}{48} pL \langle x-L \rangle^3 - \frac{13}{48} pL^3 x + \frac{11}{48} pL^4 \right) \quad (1.15)$$

(4) O 点に生じるたわみ v_0 を求めよ.

式(1.15)に, $x=0$ を代入して,

$$v_0 = v(0) = -\frac{11pL^4}{48EI} \quad (1.16)$$

[2] 図2に示すような長さ $4L$ の両持ちはりに集中荷重 P が A 点と C 点で作用している。また、はりの断面は図3に示す形状となっている。この時、以下の問いに答えよ。

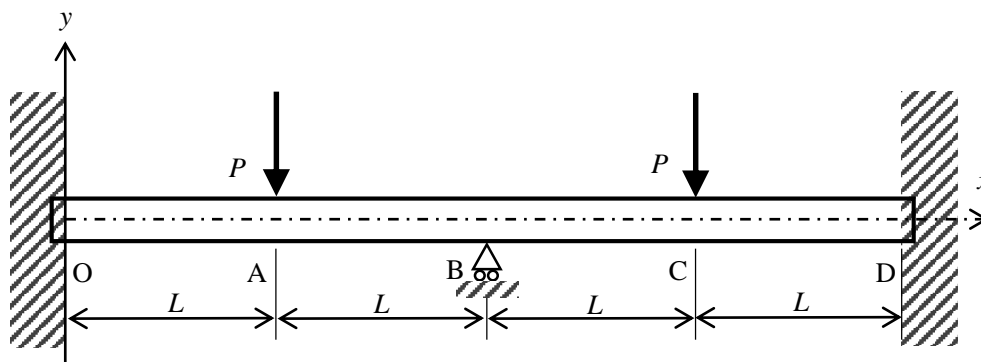


Fig.2 両持ちはり

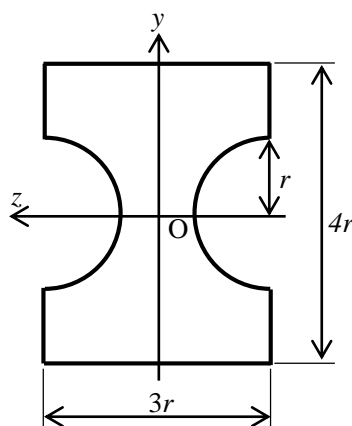


Fig.3 はり断面図

(1) はりの z 軸に関する断面 2 次モーメント I_z を求めよ。

以下の問いでは曲げ剛性を EI として答えよ。

- (2) 壁からの反力、反モーメントをそれぞれ R_O , R_D および M_O , M_D , B 点からの支点反力を R_B として、はり全体の FBD を描け。また、はり全体での力のつり合い式、モーメントのつり合い式を求めよ。
- (3) 対称性を考慮して OB 間の曲げモーメント $M(x)$ について特異関数表示せよ。このとき、B 点での反力は $R_B/2$ となることに注意せよ。
- (4) 境界条件を考慮して R_O , R_B , R_D , M_O , M_D を求めよ。
- (5) はりに最大たわみが生じる位置を示し、最大たわみ v_{\max} を求めよ。

[2]

(1) はりの z 軸に関する断面 2 次モーメント I_z を求めよ.

全体の断面二次モーメントは, 以下の図に示すように部材 A と部材 B に分け, 部材 A の断面二次モーメントより部材 B の断面二次モーメントを引くことで求まる.

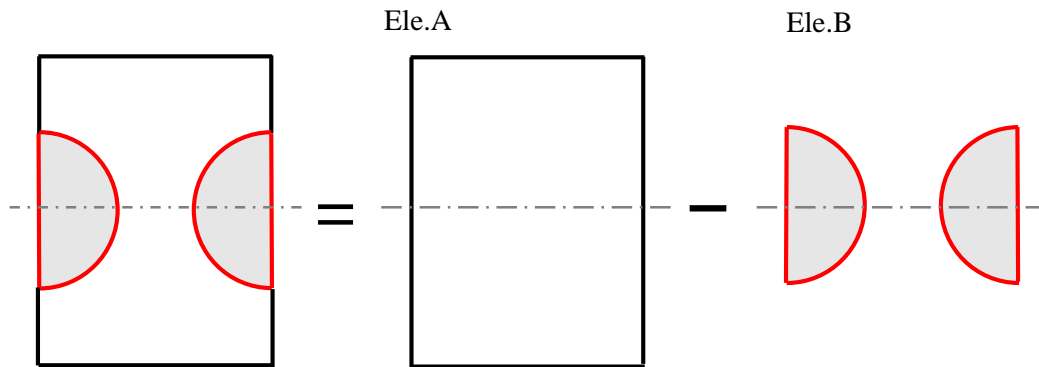


Fig.2.1 部材の分解図

それぞれの部材における断面二次モーメント I_z を求める.

i) 部材 A について

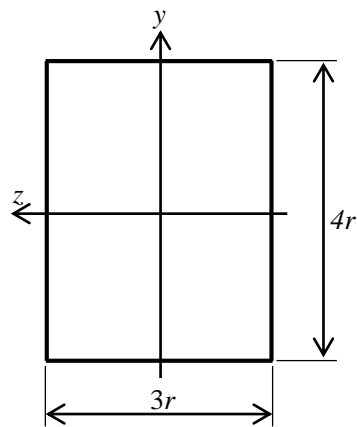


Fig.2.2 部材 A

長方形より, 部材 A における z 軸に関する断面二次モーメント I_{ZA} は次のように求まる.

$$I_{ZA} = \frac{bh^3}{12} = \frac{3r \cdot (4r)^3}{12} = 16r^4 \quad (2.1)$$

ii) 部材 B について

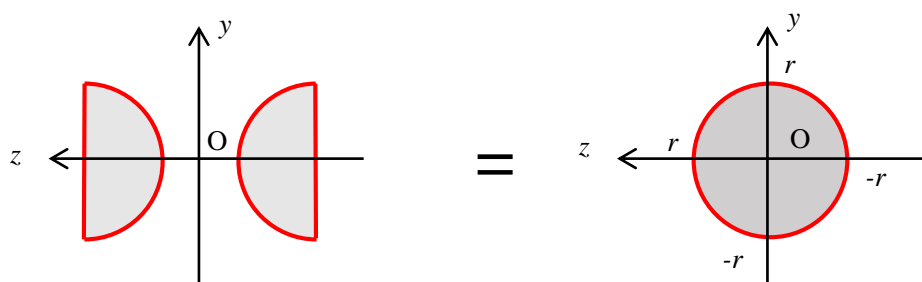


Fig.2.3 部材 B

円形より，部材 B における z 軸に関する断面二次モーメント I_{ZB} は次のように求まる．

$$I_{ZB} = \frac{\pi r^4}{4} \quad (2.2)$$

式(2.2)，(2.4)より，求める断面 2 次モーメント I_z は，

$$I_z = I_{ZA} - I_{ZB} = 16r^4 - \frac{\pi r^4}{4} \quad (2.3)$$

(別解)

図 2.1 にはりの z 軸に関する断面 2 次モーメントを求める．

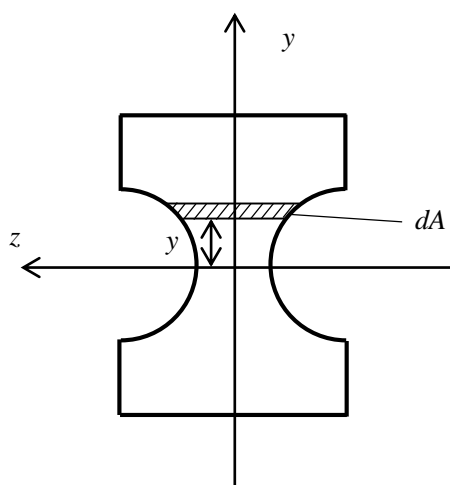


Fig.2.4 はりの断面 2 次モーメントの計算

上図における微小面積 dA は,

$$dA = \begin{cases} (3r - 2\sqrt{r^2 - y^2})dy & (-r \leq y \leq r) \\ 3rdy & (-2r \leq y \leq -r, \quad r \leq y \leq 2r) \end{cases} \quad (2.4)$$

よって断面 2 次モーメント I_z は,

$$\begin{aligned} I_z &= \int_A y^2 dA \\ &= \int_{-2r}^{-r} 3ry^2 dy + \int_{-r}^r (3r - 2\sqrt{r^2 - y^2})y^2 dy + \int_r^{2r} 3ry^2 dy \\ &= \int_{-2r}^{-r} 3ry^2 dy - \int_{-r}^r 2\sqrt{r^2 - y^2} y^2 dy \\ &= 16r^4 - \int_{-r}^r 2\sqrt{r^2 - y^2} y^2 dy \end{aligned} \quad (2.5)$$

ここで右辺第二項について,

$$y = r \sin \theta \quad (2.6)$$

とおけば,

$$\begin{aligned} \int_{-r}^r 2\sqrt{r^2 - y^2} y^2 dy &= \int_{-\pi/2}^{\pi/2} 2r^4 \sin^2 \theta \cos^2 \theta d\theta \\ &= \frac{1}{4} r^4 \int_{-\pi/2}^{\pi/2} (1 - \cos 4\theta) d\theta \\ &= \frac{\pi r^4}{4} \end{aligned} \quad (2.7)$$

式(2.5), (2.7)より, 求める断面 2 次モーメント I_z は,

$$I_z = 16r^4 - \frac{\pi r^4}{4} \quad (2.8)$$

- (2) 壁からの反力, 反モーメントをそれぞれ R_O , R_D および M_O , M_D , **B** 点からの支点反力を R_B として, はり全体の **FBD** を描け. また, はり全体での力のつり合い式, モーメントのつり合い式を求めよ.

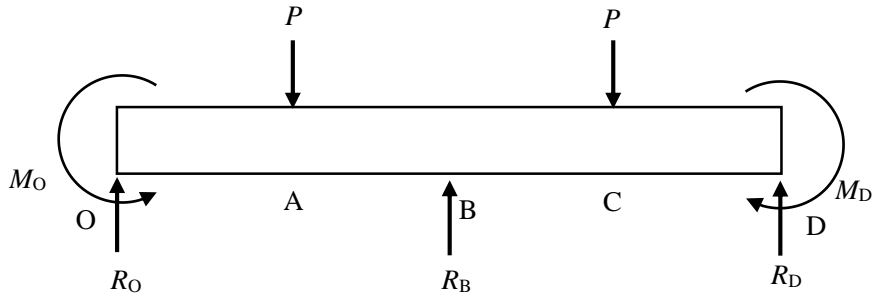


Fig.2.5 はり全体のFBD.

力のつり合いより,

$$R_O + R_B + R_D - 2P = 0 \quad (2.9)$$

点 O まわりのモーメントのつり合いより,

$$\begin{aligned} -M_O + P \cdot L - R_B \cdot 2L + P \cdot 3L - R_D \cdot 4L + M_D &= 0 \\ \therefore -M_O - 2R_B L - 4R_D L + M_D + 4PL &= 0 \end{aligned} \quad (2.10)$$

- (3) 対称性を考慮して OB 間の曲げモーメント $M(x)$ について特異関数表示せよ. このとき, B 点での反力は $R_B/2$ となることに注意せよ.

対称性を考慮して, $0 \leq x \leq 2L$ での FBD は以下ようになる.

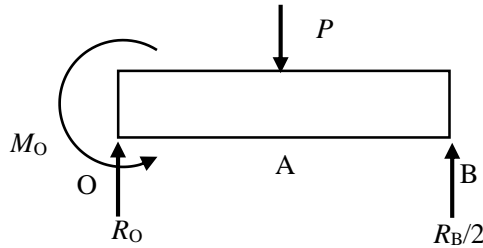


Fig.2.6 $0 \leq x \leq 2L$ での FBD.

力のつり合いより,

$$R_O + \frac{1}{2}R_B - P = 0 \quad (2.11)$$

$M(x)$ を特異関数表示すると,

$$M(x) = M_O \langle x \rangle^0 - R_O \langle x \rangle^1 + P \langle x - L \rangle^1 \quad (2.12)$$

(4) 境界条件を考慮して R_O , R_B , R_D , M_O , M_D を求めよ.

はりとたわみの関係式から, 式(2.12)より,

$$\begin{aligned} -EIv'' &= M(x) \\ &= M_O \langle x \rangle^0 - R_O \langle x \rangle^1 + P \langle x - L \rangle^1 \end{aligned} \quad (2.13)$$

次に C_1 , C_2 を積分定数として, 式(2.13)の両辺を2回積分する.

$$-EIv' = M_O \langle x \rangle^1 - \frac{1}{2} R_O \langle x \rangle^2 + \frac{1}{2} P \langle x - L \rangle^2 + C_1 \quad (2.14)$$

$$-EIv = \frac{1}{2} M_O \langle x \rangle^2 - \frac{1}{6} R_O \langle x \rangle^3 + \frac{1}{6} P \langle x - L \rangle^3 + C_1 x + C_2 \quad (2.15)$$

よって, はりのたわみ v の x 方向変化を $v(x)$ とおき, 境界条件について考える.
点Oでは固定端なので,

$$v(0) = 0 \quad (2.16)$$

$$v'(0) = 0 \quad (2.17)$$

点Bでは単純支持なので,

$$v(2L) = 0 \quad (2.18)$$

また, 点Bでの対称性から,

$$v'(2L) = 0 \quad (2.19)$$

式(2.15), (2.16)に式(2.17), (2.18)をそれぞれ代入して, 積分定数 C_1 , C_2 は,

$$C_1 = C_2 = 0 \quad (2.20)$$

よって, 式(2.15)に式(2.18), (2.20)を代入して,

$$\begin{aligned} 0 &= 2M_O L^2 - \frac{4}{3} R_O L^3 + \frac{1}{6} PL^3 \\ \therefore 2M_O L^2 - \frac{4}{3} R_O L^3 &= -\frac{1}{6} PL^3 \end{aligned} \quad (2.21)$$

また, 式(2.14)に式(2.19), (2.20)を代入して,

$$\begin{aligned}
0 &= 2M_O L - 2R_O L^3 + \frac{1}{2} PL^3 \\
\therefore 2M_O L - 2R_O L^3 &= -\frac{1}{2} PL^3
\end{aligned}
\tag{2.22}$$

式(2.11), (2.21), (2.22)より,

$$(R_O, R_B, M_O) = \left(\frac{1}{2} P, P, \frac{1}{4} PL \right) \tag{2.23}$$

式(2.9), (2.10), (2.23)より,

$$(R_O, R_B, R_D, M_O, M_D) = \left(\frac{1}{2} P, P, \frac{1}{2} P, \frac{1}{4} PL, \frac{1}{4} PL \right) \tag{2.24}$$

(5) はりに最大たわみが生じる位置を示し, 最大たわみ v_{\max} を求めよ.

式(2.15), (2.16), (2.24)より, $v'(x)$, $v(x)$ は以下のように表される.

$$v'(x) = -\frac{1}{EI} \left(\frac{PL}{4} \langle x \rangle^1 - \frac{P}{4} \langle x \rangle^2 + \frac{P}{2} \langle x-L \rangle^2 \right) \tag{2.25}$$

$$v(x) = -\frac{1}{EI} \left(\frac{PL}{8} \langle x \rangle^2 - \frac{P}{12} \langle x \rangle^3 + \frac{P}{6} \langle x-L \rangle^3 \right) \tag{2.26}$$

ここで式(2.25)より,

$$v'(L) = 0 \tag{2.27}$$

が成り立つので, 点 A にて最大たわみが生じ, 対称性から点 C でも最大たわみが生じる.

よって, 求める最大たわみ v_{\max} は, 式(2.26)に $x=L$ を代入して,

$$v_{\max} = v(L) = -\frac{PL^3}{24EI} \tag{2.28}$$